令和4年度　「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　災害の怖さ　」

山形県　白鷹町立白鷹中学校　３年　田宮（たみや）　悠羽（ゆう）

八月三日、午後八時、山形県特別警報という大きな文字が左側に上部には緊急安全確保、避難指示、土砂災害警戒情報のテロップが流れ、気象庁の中継が始まりました。私が住む白鷹町もその中に含まれていて今まで自分の住む町が全国放送で流れたことなどなかったので怖くなってしまいました。お母さんとお姉ちゃんと私はそのテレビをみながら、「白鷹町が全国放送？」、「最上川の水位が上がっているって。」、「どうする？家の前が冠水して家ごと流されたら…。」と、災害が間近に迫ってきていることに緊張が高まりました。気象庁の方が何度も山形県上空に線状降水帯が発生したことが影響していることを説明していました。お姉ちゃんが「線状降水帯って大きな災害になることが多いんだ。同じ場所に長時間降り続くから被害も出るし、外はどうなっているか確認した方がいい。」と言い、お母さんが外の状況を確認することにしました。私の家は田んぼに囲まれていて長く雨が続くと洪水のようになるからです。「雨はかなり降っているけど家の周りはまだ影響ない。」とお母さんが安心して言いました。でも、テレビはずっと被害状況の映像と天気図が流れていました。午後十時頃携帯に大きな音が流れました。緊急メール速報でした。白鷹町に避難指示が出されたのです。最上川が氾濫する可能性があるとの内容でした。私の家は最上川から遠く避難の地区ではなかったのでホッとしました。小学校の時に白鷹町の防災マップについて勉強したことがあり、私が避難する場合はコミュニティセンターだと知ってはいましたが、もし私に避難指示が出たら何をもっていくべきか、何をすべきか迷ってしまったと思います。

次の日の朝、雨が上がり安心しました。昨日の出来事が嘘であってほしいと思いました。新聞もテレビも昨日の大雨の被害状況ばかりでした。友達のいる長井市や飯豊町の様子を見てたった一日でこんな大きな被害が出てしまうのだと災害の怖さを感じました。私の町では何も被害がなかったことをあとで知りました。町職員のお父さんは町民の安全のために最上川の水位の確認や土砂災害の危険なところはないかなど被害状況の確認をしていたそうです。

その一週間後の八月九日、私は東北大会のために青森市に行きました。天気予報では雨予報だと分かっていましたが、朝から大雨が降り、陸上競技場に着いた時はどしゃぶりでした。一週間前を思い出してしまいました。陸上大会はどんなに雨が降っても行われる競技です。九時半から大会が始まりました。六県から集まった中学生はこの大会のために一生懸命練習してきました。悪天候であってもベストを尽くす気持ちはみんな同じです。レースの途中で雨で滑って転倒したり、雨の冷たさで体が冷えたり…。でも、一番驚いたのは午後一時に観客席に響き渡った緊急速報メールの音。「岩木川で氾濫のおそれ、警戒レベル四相当」の内容でした。陸上競技場近くは雨は降ってはいましたが災害のおそれはなく最後の競技まで続行されました。レースの結果よりも思い出に残る大会になりました。

十日も大会は行われましたが私は競技がないため応援に来た家族と一緒に帰ることになりました。一週間前の特別警報は青森県と秋田県に変わりました。テレビやインターネットで交通状況を確認しながら帰ることにしました。青森県の高速道路から見えるりんご畑が冠水していたり、大きな木が倒れていたり交通パトロールの車がたくさん出ていました。秋田自動車道も通行止めのところがあり高速道路を降りるとすぐに目の前に木が倒れていたりアンダーパスは冠水していました。「こんな事って…。山形に帰れるの？なんか怖い。」と私は泣きそうになりました。お母さんが、「国土交通省のキキクルを見ると災害状況が一番わかるんだよ。それと気象庁のアメダスを見ながら通っていけば何も怖くないから。」と元気づけてくれました。途中、雄物川の堤防ギリギリの水位を見たり雨で前が見えなくなったり、雨の怖さを実感しました。

私はこの一週間で大雨の災害を二回経験しました。東北地方という安全な地域に住んでいると思っていると思っていたけどそうではないことを実感しました。災害はいつ起こるか分かりません。今回、緊急速報メールやテレビによる詳しい情報が私たちの安全を守ってくれたことに感謝し、中

学生の私でも事前に防げることは何かあるのではないかと考えるきっかけになりました。まずは避難グッズを準備する事から始めたいと思います。